

第 6 次長野県保健医療計画の進捗状況評価 (平成 28 年度版 抜粋)

項目の解説

① 目安値

- ・ 「目標 (H29)」と「現状 (H24)」との差の 5 分の 3 の値と「現状 (H24)」の値を足したものを記載。
- ・ 上記に拠り難いものは、「－」又は個々に検討した数値を記載。

② 実績値

- ・ 平成 27 年度末の数値を記載。その際、調査年度が古いものは下段に () 書きで年度を記載。

③ 進捗区分

- ・ 目安値と実績値から進捗率を積算し、以下により評価を実施。
 - 「順調」 : 実績値が進捗率の 10 割以上 (目安値以上) の場合
 - 「概ね順調」 : 実績値が進捗率の 8 割以上の場合
 - 「努力を要する」 : 実績値が進捗率の 8 割未満の場合
 - 「－」 : 実績値が把握できないもの (隔年調査) 等

④ 総合分析及び特記事項

施策区分 (編又は章) ごとに総合的な分析を実施するとともに、進捗区分が「順調」以外の指標は、原則として「指標の状況」や「今後の取組」等を記載。

第6編 医療施策

第3章 医療施策の充実

第1節 救急医療

[総合分析]

初期救急・第二次救急・第三次救急いずれの指標も順調に推移しており、救急医療体制の整備が着実に進んでいる。
一方、地域連携クリティカルパスの導入率は努力を要するであり、療養の場への円滑な移行が可能な体制づくりを強化していく必要がある。

指標名	現状(H24)	目標(H29)	H25	H26	H27	進捗区分	特記事項 (進捗区分が「順調」の場合は記載していません)	
			目安値 実績値	目安値 実績値	目安値 実績値			
252	救急救命士が常時同乗している救急車の割合(救急隊のうち救命士常時運用隊の比率)	64.3% (H23)	80%以上 (H28)	67.4% (H24)	70.6% (H25)	73.7% (H26)	順調	
253	救命救急センターの充実度評価Aの割合	100.0% (H23)	100.0% (H28)	100.0% (H24)	100.0% (H25)	100.0% (H26)	順調	
254	二次救急医療機関(病院群輪番制病院)の数	52機関 (H22)	52機関以上	52機関 53機関	52機関 53機関	52機関 53機関	順調	
255	休日・夜間に対応できる医療施設数	20施設 (H22)	20施設以上	20施設 20施設	20施設 20施設	20施設 20施設	順調	
256	ドクターヘリの運用機数	2機	2機	2機 2機	2機 2機	2機 2機	順調	
257	人工呼吸器が必要な患者や気管切開等のある患者を受け入れる体制を備えた病院の割合	55%	55%以上	55% 55%	55% 55%	55% 59%	順調	
258	地域連携クリティカルパス導入率(急性期医療機関)(脳卒中)(再掲(228))	県内平均88%	100%	90.4% 88%	92.8% 88%	95.2% 92.3%	努力を要する	引き続き、啓発周知を図っていく。
259	地域連携クリティカルパス導入率(急性期医療機関)(急性心筋梗塞)(再掲(229))	県内平均60%	100%	68% 57%	76% 57%	84% 52%	努力を要する	

第2節 災害時における医療

[総合分析]

平成25年度より実施している地域医療再生事業(三次分)等の活用により、各医療圏における地域災害医療マニュアルの策定や訓練実施等の取組が活発化している。
一方で、業務継続計画を策定している災害拠点病院は0病院であり、強力に策定を進める必要がある。
また、災害時に被災地へ派遣可能な医療従事者の総数についても、引き続き、医療救護班の編成・派遣について病院へ働きかけていく。

指標名	現状(H24)	目標(H29)	H25	H26	H27	進捗区分	特記事項 (進捗区分が「順調」の場合は記載していません)	
			目安値 実績値	目安値 実績値	目安値 実績値			
260	地域災害医療マニュアル(指針)を策定した二次医療圏数	6医療圏	10医療圏	6.8医療圏 9医療圏	7.6医療圏 10医療圏	8.4医療圏 10医療圏	順調	
261	行政、災害拠点病院、医師会等の関係機関によるコーディネート機能の確認を行う災害実働訓練の実施二次医療圏数	0医療圏	10医療圏	2医療圏 3医療圏	4医療圏 6医療圏	6医療圏 7医療圏	順調	
262	業務継続計画及び災害対応マニュアルを共に策定し、定期的に見直しを実施している災害拠点病院数	0病院	10病院	2病院 0病院	4病院 0病院	6病院 0病院	努力を要する	災害対応マニュアルはすべての災害拠点病院で策定済み。
263	災害派遣医療チーム(DMAT)指定病院における日本DMAT研修を受講したチームの保有数	27チーム	40チーム	29.6チーム 32チーム	32.2チーム 38チーム	34.8チーム 43チーム	順調	
264	災害時に被災地へ派遣可能な医療従事者の総数	480人 (病院数98)	500人以上 (病院数100以上)	484人 338人	488人 342人	492人 404人	努力を要する	引き続き医療救護班の編成・派遣について病院への働きかけを強化する。